

## 小学校教師向け広報活動

### ～ 東京都小学校社会科研究会による海運関連施設の見学会 ～

日本船主協会は、海運の重要性について広く理解を得るため、様々な広報活動を行っている。特に教師/児童などの学校関係者向けには積極的かつ地道な活動を継続してきており、その一環として、小学校教師で構成される社会科研究会(副教材の作成等を行っている研究会)を対象に、関連団体等とも連携して海運関連施設の見学会等を実施している。

2015(H27)年度は、7/8月の夏休み期間に東京都小学校社会科研究会の見学会として実施し、42名の教師が参加した。見学会の概要は以下の通り。

【東京都：2015年7月29日(水)】

「東京都小学校社会科研究会 研修会」(石油連盟との共催)

① JX日鉱日石エネルギー根岸製油所

エネオスホールにおいて、石油連盟およびJX日鉱日石エネルギーに関する講演が行われた後、同製油所内施設を見学(原油栈橋に停泊中のタンカー概観も視察した)。

② 横浜港(大黒)コンテナターミナル

日本郵船スタッフによる説明が行われた後、ターミナルビル屋上より本船へのコンテナ積み込作業、ターミナル施設を見学。

③ 日本郵船歴史博物館

同館オリエンテーションルームにて、脇屋館長代理より館内の説明等があり、その後館内を見学。



コンテナターミナルビルにて、(左)説明会 (右)屋上から実際のコンテナ積み込を見学

同見学会では、私たちが日頃目にするあらゆるモノから生活に必要なエネルギーの資源など、日本の貿易量の99.7%が船で運ばれていることを含む、海運の役割や重要性について説明を行った。

バス移動中にはDVD「日本の海運」および「海の上のプロフェッショナル」を上映し、上記の海運に関する現状や職業としての船員について視覚的に関心を持っていただけるよう試みた。また、コンテナターミナルにおいて、コンテナを本船へ積み込む作業を実際に見ることができたことは先生方に大変インパクトがあった様子で、ガントリークレーンの運用や作業員に関する質問がなされ、熱心に写真撮影している姿も多く見られた。なお、日本郵船歴史博物館では我が国における海運の歴史をはじめとして、現代の海運事情に関しても概説された。

参加した先生方からは、以下の感想・意見等が寄せられた。

- あらためて海運・貿易立国であることが理解できた。
- あらゆるモノが船で運ばれていることを、DVDのコンビニ商品のシーンで実感した。

- コンテナを実際ガントリークレーンで積み込んでいる所を見る事ができて良かった。
- 運輸を専門に教材開発してきたが海運についてはほとんどやってこなかった。今回ヒントを得られた。
- 区市教育委員会等に働きかけ、出前授業などを開催していただきたい。
- 先生方を対象に見学会を積極的に実施し“一見”させること、面白い授業/資料の提供が大事。

本見学会を通じ、できる限り多くの先生方に「海運」について認識いただき、授業で海運の重要性を児童と共に考えていただくことを期待するとともに、今後も積極的に学校関係者向けの広報活動に取り組むこととしている。

(日本船主協会 総務部)